

論壇

翻訳しやすい日本語で

少し前のことだが、山口県で行われた日本とスペインのシンポジウムで面白いシーンがあった。この会議は以前静岡で行われたこともあったが、スペインから経済界や学会の人が日本を訪問して、同じような立場の日本人たちと討議する会議だ。経済や文化などいくつかのセッションがあり、それぞれ何人かの人がスピーチをする。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

口へよつと「とか」「この会議が両国の交流の拡大につながれば幸いです」といった、ごく簡単なフレーズである。簡単とはいってもスペイン語を話すのは初めての人が大半なので、皆さんそれなりの準備をしたようだ。スペインの参加者も、スペイン語のあいさつには喜んでようだ。

外国語教育と技術への対応

そうした中で、圧巻だったのは慶応大学の先生のスピーチだった。壇上に立つと、いきなりかなり早口で日本語のあいさつを始めた。そしてそれを手に持っているポケットで翻訳させたのだ。意識的に日本語を早口で話したので余計そう感じたのかも知れないが、このスペイン語が見事

だった(と少なくとも私には聞かされた)。もちろん、スペインの参加者からは大喝采の拍手があつた。これこそ、新しい技術をどう利用したらよいかを示唆する、好事例であると思う。ポケットのような翻訳機器が発達すれば、一生懸命に外国語のフレーズを覚える英語に翻訳しやすい日本語を話す練習をした方が、はるかに有効であると思う。いま学校で英語の勉強のために使っている時間で、かなりの部分が新しい技術環境の中では必要なくなるかもしれない。

誤解がないようにしたいが、私は英語などの外国語の勉強が必要ないと言っているわけではない。そもそも母国語と異なる言語を学ぶことはいろいろな意味で意味のあることであるし、世界共通語となっている英語でコミュニケーションができることは、今後ますます重要となるだろう。

道具を利用し生活改善

ただ、まったく丸腰で英語の能力を鍛えるということではないだろう。ますます性能が高まり、コ

ストが安くなる翻訳機器を利用するということを前提とした外国語でのコミュニケーションのあり方を考える必要がある。そしてそのための英語教育とは何かということとを考へる時期にきているのだ。それほど翻訳機器の能力向上のスピードは速い。近視の人が眼鏡を利用するように、そして移動には自転車や自動車を利用して生活を改善してきた。眼鏡や自動車のない生活を考えることは難しい。移動の手段といえば、飛行機の利用が増え、国境を越えて移動する人が増えている。だから、異なった言語の間でのコミュニケーションがますます重要になっていく。こうした課題に対応するためにも、技術の助けを借りるのだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。